

| | |
|---------|--|
| 氏名 | 則 清 泰 造 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博乙第 3164 号 |
| 学位授与の日付 | 平成9年12月31日 |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当) |
| 学位論文題目 | 側頭葉てんかんにおけるBenzodiazepine Receptor Imaging SPECT の検討- ¹²³ I-IMP SPECTとの比較- |
| 論文審査委員 | 教授 庄盛 敏廉 教授 小川 紀雄 教授 岡 鏡次 |

学位論文内容の要旨

新しく開発された中枢性ベンゾジアゼピン受容体(BZr)の特異的リガンドである ¹²³I-Iomazenil(ethyl-5,6-dihydro-7-¹²³I-5-methyl-6-oxo-4H-imidazo-[1,5a][1,4]-benzodiazepine-3-carboxylate)を用い、側頭葉てんかんの患者10症例(男性8例、女性2例)を対象にBZr イメージングSPECT を実施し、¹²³I-IMP による脳血流定量SPECT と比較検討した。¹²³I-IMP SPECT では5例に側頭葉の低血流領域を認めたのに対し、¹²³I-Iomazenil SPECT では7症例に側頭葉のトレーサーの低集積像を認め、これらの側頭葉の異常所見は脳波焦点と一致していた。¹²³I-Iomazenil SPECTの低集積像はBZr 結合の減少を意味し、BZr濃度の低下あるいは神経細胞の減少を表す。¹²³I-Iomazenil SPECT 検査は、非侵襲的手法としててんかん焦点部位決定に脳血流定量SPECTと同等あるいはそれ以上に有用であり、側頭葉てんかんの病態にGABA_A/BZrの障害が存在する可能性があり、その病態理解を深めることに有用であることを指摘した。

論文審査結果の要旨

本研究は、側頭葉てんかんを神経放射線学的に研究したものであるが、新しい中枢性ベンゾジアゼピン受容体の特異的リガンドである ¹²³I-Iomazenil を用いる受容体イメージング SPECT によって患者を調べて、従来から使用されている脳血流定量 SPECT に比べて、てんかん焦点部位の決定のみならず病理組織学的変化の推測に優れている、という側頭葉てんかんの画像診断および病態理解を進める上で重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。